

「地球温暖化対策に関する問題提起と目指す方向性」

地球温暖化問題をどう理解するか

産業革命以降、特にここ5,60年間で加速された化石エネルギー消費量の増加と二酸化炭素排出増加。

CO₂濃度上昇 地球の温室効果 温暖化 海面上昇、気象変動。 <資料1>

エネルギー消費量をもたらした背景とエネルギー大量消費がもたらしたもの。 <資料2>

理解 = 「豊かさ」の代償。

誰も支払ってこなかった CO₂ 濃度上昇に伴う問題への対応コスト。

現在の先進国の社会は、エネルギー大量消費の上に成り立っている。

CO₂ 排出管理 = エネルギー消費管理 = 生産や社会活動管理 (技術一定、エネルギー・ミクスチャー一定、我慢せず、経済水準維持の前提)

問題提起 1 : 地球温暖化ガスの代表CO₂は、汚染物質か。
<資料3>

問題提起 2 : 京都議定書の枠組みは、絶対か。

(1) 地球温暖化対策は、国際交渉の場においては、「環境問題」の衣を被った「地勢学的、国際政治的」問題。

基準年とされている1990年と言う年 <資料4>

(2) 「どんな枠組みでも全て、人間の“業”」。

京都議定書は、人類最初の数量目標値を定めた国際的枠組みであり、極めて意欲的なもの。“人間の決めたことは、全て変更あり得べし”。京都議定書といえども、より現実的に、より実効あるべく修正することを躊躇してはいけない。

(3) 京都議定書の問題点

「温暖化ガス削減目標」ではなく、「エネルギー消費量削

減目標」であったら、どうなっていたらろう
「これからの社会をどのようなものにするか。」「どの
ような社会を作ってゆくのか。」「豊かさをどう考えるか。
もっと豊かになることを目指すのか」に繋がる。
しかし、日本国内で決められたこと。
:企業、産業界としては、温暖化ガス削減に努力。

問題提起 3 : 「持続可能な開発 = Sustainable Development」は、
実現可能か。

先進国と発展途上国（地球温暖化問題に見る南北問題）
・ 環境問題への対応の前に、「貧困」、「飢餓」、「衛生」
などの問題がより現実的で、重い。 <資料5>
経済学で言う「創業者利得」をどう考える。
「豊かさの追求」、「環境の保全・改善」、「その二つを繋
ぐエネルギー確保」の同時達成は可能か。

問題提起 4 : 日本は、如何にあるべきか。

世界の中の日本（世界の他に例を見ない国、世界中の天
然資源に支えられている国、資源生産性の高い国等々）
<資料6>

この豊かさは、私たちの先人と資源供給国、そして、平
和に依存して、なしえた。

日本にあったもの「技術」、「高水準にそろった教育を受
けた国民」、「勤勉さ」。

「豊かさ」とは何だろう。「お金」以外の豊かさの尺度を
考えたい。これまでの日本を支えてきた多様な価値観。
目指したい「環境立国」。エネルギー資源利用最適効率社
会の形成を。エネルギーの大量消費、大量廃棄社会から
の離脱。

エネルギーを始めとして投入資源生産性の高い日本の産
業技術。その地球規模での普及と一層の開発が課題。

<資料7>

都市の環境順応型への改造（50年計画で）

以上